

技術士第二次試験受験申込書

文部科学大臣指定試験機関 公益社団法人 日本技術士会会長 殿
下記により、技術士第二次試験を受験したいので、申し込みます。

2019年 4月23日

(フリガナ) アカイシ コレヒロ		受 験 地		D 福岡県	
氏 名 赤石 維衆 (男 [☑] ・女 [□])		技 術 部 門		09 建設部門	
生 年 月 日 1971 年 9 月 23 日 生		選 択 科 目		河川、砂防及び海岸・海洋	
本 籍 地 鳥取県 都道府県コード 3 1		専門とする事項		河川水質および環境改善計画	
現 住 所 〒816-0863 福岡県 春日市須玖南5丁目20番地 マンション名等 ロワールマンション春日Ⅱ-601号室 都道府県コード 4 0 電話番号 092-574-1888		総合技術監理部門の受験を申し込む者で、右のいずれかに該当する者は□に√を付すこと		他の技術部門と併願 ☐ 選択科目が免除 ☐	
勤 務 先 〃 〃 支店・部課名等 〃 〃 勤務先コード 4 1 電話番号 〃 〃		最 終 学 歴 学校名 岡山大学大学院 学科・学系名 農学研究科 最終学歴コード 0 5		卒業(修了)年月 1996 年 3 月	

下記の該当する口に✓を付し、必要事項を記入すること。

下記の該当する□に✓を付し、必要事項を記入すること。			
☒	技術士第一次試験合格証番号及び合格年月	第 4 6 3 6 4 号	2 0 0 4 年 1 月
☐	技術士補登録番号及び登録年月日	第 号	年 月 日
技術士法第三十一条の二第二項の規定により文部科学大臣が指定した大学その他の教育機関における課程及び当該課程の修了年月			
☐	学校名 学校コード	課程 課程コード	年 月

総合技術監理部門の選択科目の免除を受ける場合には、下記の該当する□のいずれかに✓を付し、必要事項を記入すること。

技術士第二次試験合格証番号又は技術士登録番号		合格年月又は登録年月日		合格した技術部門
☐	合格証番号	第 号	年 月	
☐	登録番号	第 号	年 月 日	

※	整理番号	
	技術士法第六条第二項第一号	☐
	技術士法第六条第二項第二号	☐
	技術士法第六条第二項第三号	☐

備考1 ※印欄には、記入しないこと。

- 2 氏名の欄中()内は、該当する口に✓を付すこと。
- 3 指定試験機関に申し込む場合には、所定の手続により受験手数料を納付し、払込受付証明書をはること。
- 4 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

2019年 1月20日摄影

寫真貼付欄

第二次試験の申込前6箇月以内に半身脱帽で撮った縦4.5センチメートル、横3.5センチメートルの写真で本人と確認できるものをはるこ。

受験手数料払込受付証明書貼付欄

氏 名	赤石 維衆
-----	-------

※ 整理番号	
--------	--

実務経験証明書

大学院における研究経歴／勤務先における業務経歴

	大学院名	課程（専攻まで）	研究内容	①在学期間		
				年・月～年・月	年 月 数	
	岡山大学大学院	農学研究科 応用遺伝子工学	トマト青枯病細菌Pseudomonas solanacearum の非病原株の特有のプラスミドpJTPS1の構造 及び機能解析	1994 年 4 月 ～ 1996 年 3 月	2 0	
詳細	勤務先 (部署まで)	所在地 (市区町村まで)	地位・ 職名	業務内容	②従事期間	
					年・月～年・月	年 月 数
	河川事業部	東京都	技師	ヒシステムの改善のための現地水 による実験と改善方法の評価	1996 年 4 月 ～ 1998 年 6 月	2 3
	河川事業部	福岡市 中央区	嘱託技師	事業に伴う水質改善計 画の立案と流域対策の調査・評価・立案	1998 年 7 月 ～ 2000 年 12 月	2 6
	河川事業部	福岡市 中央区	嘱託技師	事業に伴う水路浄化計 画の立案と流域対策の実験・評価・立案	2002 年 5 月 ～ 2005 年 3 月	2 11
	河川事業部	福岡市 博多区	嘱託技師	球磨川浄化計画の立案と流入小水路を用いた 流域独自の浄化実験・評価	2005 年 4 月 ～ 2010 年 12 月	5 4
			課長代理	污水改善装置導入による河川・海洋水質改善 方法の検討	2012 年 4 月 ～ 2019 年 1 月	6 9
※業務経歴の中から、下記「業務内容の詳細」に記入するもの1つを選び、「詳細」欄に○を付して下さい。					合計（①+②）	19 9
上記のとおり相違ないことを証明する。					年 月 日	
事務所名						
証明者役職						
証明者氏名					印	

A

業務内容の詳細

当該業務での立場、役割、成果等
私は、河川・湖沼の浄化計画・実験・調査を経験している。先日の福岡県朝倉市の水害は、親戚が被害にあった。私の技術があれば、ごく初期に水質変化という簡単な変化で水害警報が早く出せたはずだと慚愧に堪えない。これが、私が河川、砂防及び海岸・海洋を取得する理由である（建設環境は取得済）。 球磨川では、多良木町の小河川の浄化を地元産の木炭と、球磨平野に大量に存在する黒ボク土をを河川底部に敷きならべて、その浄化効果と再利用方法を検討したものである。浄化効果は、木炭にはBODなどの有機物除去が2～3割見られた。但し、汚泥の目詰まりも大きく、出し入れが容易になったが、人重機でなく人力でできるように、ミカンかごに入れた。このことで、容易に水みちができ、いわゆる浄化効果の低下が考えられたが、その辺りの流量などを集中調査で調整を行った結果、前述のような結果得られた。同様の理由から、黒ボク土も流域でペレット化してもらい。ミカン袋に入れて、水路への出し入れを容易にした。また、黒ボク土のリン除去能力も木炭のBODのそれと同程度であった。かごと袋を使ったため、流域の田への再利用が容易になった。木炭や黒ボク土はもともと土壤改善のために土壤改良剤としての需要が高い。河川水路の浄化で使用しているため、栄養度は高い。利用がどんどん促進されると思っていたが、一旦、河川浄化で使用されたものは、土壤病原菌の心配があるとのことであった。自身が、学生時代に土壤病原菌を研究していたが、研究者と農家との間を埋めることができなかった。 本業務における、私の立場は、現場責任者と計画主任者であった。 本業務は、安易に河川・水路を浄化でき、地元産品を利用でき、再利用まで計画したものであったが、地元民が懸念を払しょくするまで至らなかった。 この方法は浄化には人手がかかるなど、費用対効果が小さいが、広い場所に施工を行うと、広範囲に水質を測定するため、少しの水質の変化（濁度が上昇するとか、ECが変化するなど）によって、水害防止に少しでも応用でき、今後はこの分野の技術士として積極的提言を行うべきと考える次第である。